

令和2年度第1回東葛北部地域保健医療連携・地域医療構想調整会議委員等からの意見及び県回答について

【議事】2025年に向けた医療機関毎の具体的な対応方針について（同一法人同一医療圏内での病床移動について）

	意見	回答
1	<p>今回の病床移動は、同時に当地域で不足する慢性期病床への移行を伴っており、当地域の医療構想においては歓迎すべきことと思われれます。</p> <p>一方で、同一法人内とはいえ、病床移動は周囲の医療環境に影響があるため、本来は一定のルールを設けるべきと考えます。</p>	<p>ご意見いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>病床の移動に関しては、様々なケースが想定されることから、望ましいルールについては、事例を積み重ねつつ明らかにしていく必要があると思われれますが、一般的には、同一二次医療圏内の同一開設者が開設する病院間の病床移動であることや地域の医療提供体制に及ぼす影響、地元の医師会の御意見等を踏まえ協議を行っているところです。</p>
2	<p>東葛北部医療圏では、必要病床数が足りていない現状があるものの、地域の中核を担う医療機関の機能強化を進めることも重要であることから、同一医療圏で同一法人内での病床移動については、特に問題ないと考えます。</p>	<p>ご意見いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。</p>
3	<p>同一法人で同一医療圏内であることから、特に問題はない。</p> <p>急性期20床の増床についても許容範囲と考える。</p>	<p>ご意見いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。</p>
4	<p>同一医療圏内であるが、将来的な人口動態を考えると、柏たなか駅周辺の人口増が見込まれるため、柏たなか病院の増床は適当と考える。</p>	<p>ご意見いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。</p>

【報告事項】平成30年度病床機能報告について

	意見	回答
1	急性期・回復期について、割合を補正することで、過剰から不足に転じたことに対して、急性期の割合が高いとされる理由が救急搬送患者など総合的に判断されるとのことだが、具体的な数値でお示ししていただくことは可能でしょうか。	東葛北部圏域は、調査対象地域（市原圏域）と比べ一般病床利用率が高い（10.5ポイント増※）など、地域の実情を総合的に鑑み、急性期・回復期病床を7：3の割合で算定する旨、過去の当会議（平成30年度第3回会議）においてもお示しさせていただいているところです。 ※出典『千葉県保健医療計画』（H30.4）
2	定量的基準に基づく病床数は、圏内ではすべての医療機能で不足しており、今後も増床ニーズが高まると思われる。	ご意見いただきまして誠にありがとうございます。 今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。

【その他】

	意見	回答
1	<p>新型コロナウイルス感染症拡大期における救急や災害医療について協議すべきではないでしょうか。</p>	<p>ご意見いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大期における救急については、今まさに対応しているところです。</p> <p>また、災害医療については東葛北部5市災害医療検討会で協議しており、本会議でその結果を報告の上、情報共有、意見交換できればと考えております。</p>
2	<p>公立病院の整備計画について、今般の新型コロナウイルス感染症に対する中心的役割は公立病院が多く担っています。整備計画に対してはこの点も考えていく必要があると考えます。</p>	<p>ご意見いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今後の地域医療のあり方の参考とさせていただきます。</p>
3	<p>急性期の中に現在の様なコロナ対応病床をおいてでも行えるように、又、その場合の病床をもっている病院に特に支援となる資金の追加が必要と考えます。</p>	<p>ご意見いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>県のコロナ患者受入のための病床確保依頼に御協力いただいている医療機関に対し、確保病床のうち空床となっている病床及びゾーニング等により休止とせざるを得ない病床についての補助を行う予定です。</p>